

皇居ツアーと江戸城址「丸の内から皇居と江戸城」を歩く

1. 日 時

2026年10月3日(土) 9時～14時頃

2. 集合場所 東京駅丸の内中央改札から800m(約12分)まっすぐ西へ進む

皇居『桔梗門』整理券配布場所 JR東京駅丸の内口から御幸通り(大通り)西進
内堀通りを超えて桔梗濠ほとりの地点 9:00(整理券を貰えないと入れません)
9:00から皇居内ツアーの整理券を配布します マイナカード等の身分証明書必要
昼食は弁当など各自ご用意ください 水筒など飲料も忘れずに 雨天中止
交通費は各自負担 資料は印刷してお持ちください 事前予約不要

3. 概略ルート おおむね6.5km(歩いている時間 約2時間)

皇居『桔梗門』出発 ⇒ 宮内庁職員による案内(10時から1時間程度)無料 ⇒
宮殿や伏見櫓など皇居内散策 ⇒ 桔梗門より出る ⇒ 二重橋前 ⇒ 桜田門 ⇒
楠木正成像 ⇒ 和田倉門噴水公園 ⇒ 大手町の平将門首塚 ⇒ 大手門より江戸
城内に入る ⇒ 江戸城内を散策 ⇒ 富士見櫓 ⇒ 松の廊下 ⇒ 本丸跡 ⇒
天守台 等 ⇒ 北桔橋門・江戸城を出る ⇒ 科学技術館前・吉田茂像(昼食)
⇒ 武道館 ⇒ 田安門を出て ⇒ 靖国通り ここで解散 九段下駅から地下鉄各
線に乗車できます 靖国神社を参拝される方は自由行動

歩きやすい服装と運動靴でご参加ください。途中の離脱も可能です。

東京桑野会歴史探訪散歩の会『皇居と江戸城を歩く』

探訪先	概 要
皇 居	皇居は、日本の天皇の住居、固有名詞としては旧江戸城や外苑等を含むが、正確には今上天皇のお住まい区域で宮殿や居所、庭園を指す。一般人は立入禁止区域である。東京都千代田区千代田1番1号に所在し、宮内庁や職員官舎もエリア内に所在する。区の中央部に立地しており、総面積は千代田区の約1割に相当する。明治天皇の東京行幸に合わせて、一度目の1868年11月26日(明治元年10月13日)に旧江戸城が東京城(とうけいじょう)と改称され、二度目の1869年5月9日(明治2年3月28日)に皇城(こうじょう)と改称された。1873年(明治6年)5月5日の火災により焼失し、旧紀州徳川家江戸中屋敷(現在の赤坂御用地)を仮皇居としたこともあった。1888年(明治21年)10月10日に明治宮殿が完成し、同年10月27日に宮城(きゅうじょう)と改称された。1945年(昭和20年)5月25日の東京大空襲により焼失し、戦後の1948年(昭和23年)7月1日に宮城の称が廃止され、皇居と称されるようになった。1968年(昭和43年)11月14日に新宮殿(現在の宮殿)が完成した。
皇居ツアー	日曜日・祝日・月曜日と年末年始及び特別行事実施日は催行しない。火曜日から土曜日の午前と午後1回ずつ、先着順にて受け付ける。マイナカード・免許証・パスポートなど写真付の身分証明書持参。手荷物検査がある。飲食物の持ち込みは可能であるが、城内の飲酒や食事は不可。水やお茶については飲んでも良い。職員のガイドが案内してくれる。無料。
皇居外苑	皇居外苑地区は、黒松の点在する大芝生広場と江戸城のたたずまいを残す濠、城門などの歴史的建造物とが調和し、我が国を代表する公園として親しまれている。皇居外苑地区の一部を構成する和田倉噴水公園は今上天皇陛下のご成婚を機に完成した水と緑の豊かな公園となっている。北の丸地区は、旧近衛連隊の跡地を森林公園として整備したもので、皇居内で一般公開がなされている東御苑をはさんで、皇居外苑地区と連絡し、一体的な公園利用が可能となっており、散策や自然観察などに利用されている。 皇居のお濠は、都市部にある貴重な水辺と緑の空間で、多様な生物の生育・生息場所となっている。環境省では、この貴重な自然環境を永続的に保護していくために、水質の改善によるアオコの抑制や動植物の保護に取り組んでいる。

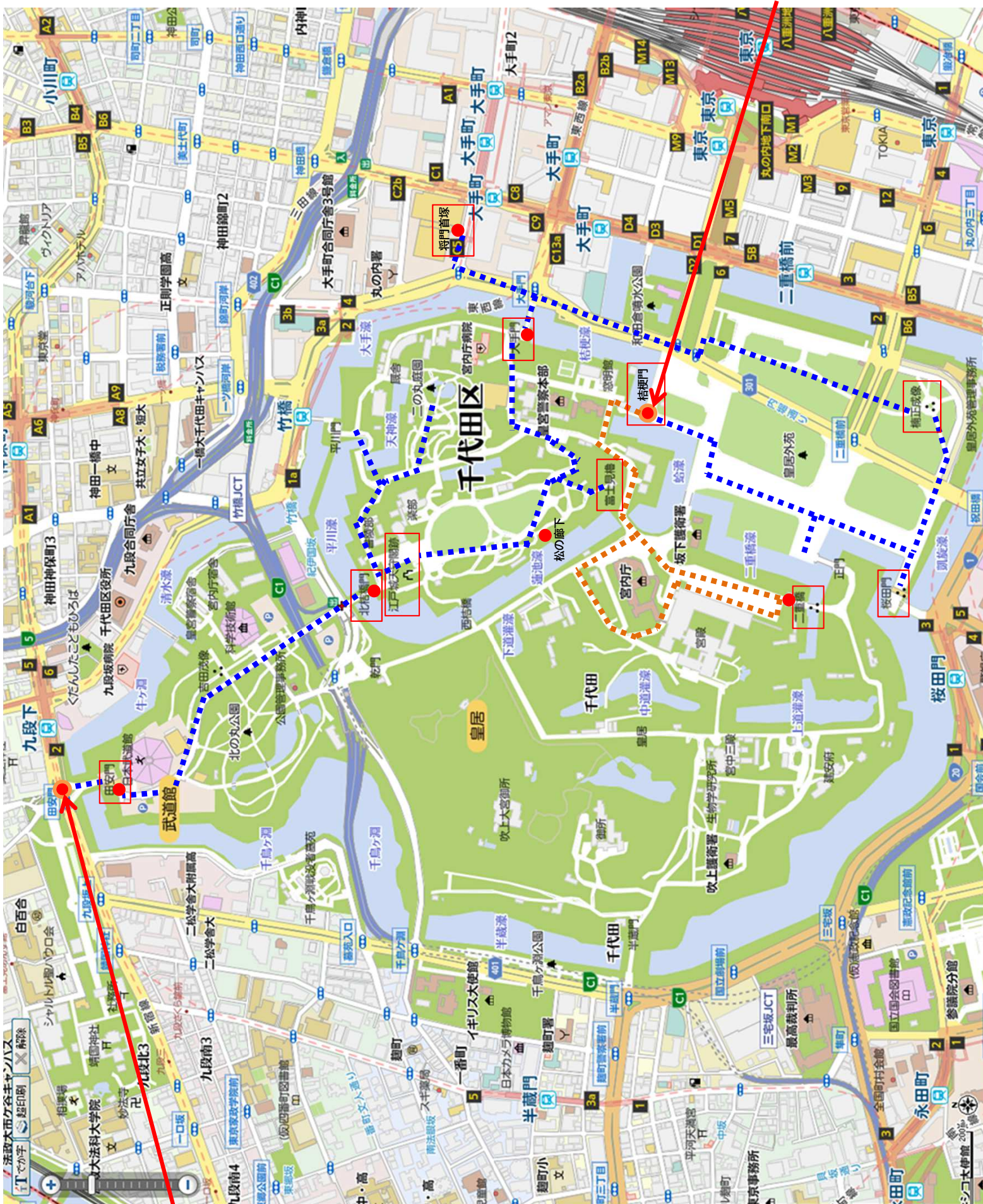
(大手町) 平将門の首塚	将門塚は、東京都千代田区大手町にある、平将門の首を供養するとされる塚(首塚)である。東京都指定の旧跡となっている。かつては盛り土があったため、古墳だったと考えられている。
平将門 (たいらのまさかど) 首塚の起源	平将門は平安時代中期、関東で反乱を起こして敗死した(承平天慶の乱)。将門塚がある地はかつて武蔵国豊嶋郡芝崎村と呼ばれ、住民は長らく将門の怨霊に苦しめられてきたという。諸国を遊行回国中であった遊行二祖他阿真教が徳治2年(1307年)、将門に「蓮阿弥陀仏」の法名を贈って首塚の上に自らが揮毫した板碑を建立し、かたわらの天台宗寺院日輪寺を時宗(じしゅう)芝崎道場に改宗したという。日輪寺は、将門の「体」が訛って「神田」になったという神田明神(神田神社)の別当として将門信仰を伝えてきた。その後江戸時代になって日輪寺は浅草に移転するが、今なお神田明神とともに首塚を護持している。時宗における怨霊済度の好例である。付近一帯は江戸時代には姫路藩藩楽頭酒井家江戸上屋敷の敷地となり、山本周五郎の歴史小説『樅ノ木は残った』で知られる仙台藩原田宗輔による刃傷沙汰が発生している(伊達騒動)。関東大震災による被災後、周辺跡地に大蔵省仮庁舎が建てられることとなり、石室など首塚の大規模な発掘調査が行われた。1927年(昭和2年)に将門鎮魂碑が建立され、神田神社宮司が祭主となって盛大な将門鎮魂祭が執り行われる。この将門鎮魂碑には日輪寺にある他阿真教上人の直筆の石版から「南無阿弥陀仏」が拓本された。朝廷への謀反者として常陸国・幸島村にて討ち死に、西暦940年3月25日没。首は京都の七条河原に晒されたが、その首は、何ヶ月経っても生きているかのように目を見開いて腐らず、夜な夜な「斬られし我が五体 何のところにあらん 此処に来たれ 頭続(くびついで)今一軍(いまひとくさ)せん」(斬られた私の胴体はどこにあるのか。持って来い。首をつないでもう一戦しよう)と叫び続けていたといわれる。ある日将門の首はケタケタと笑い出し、関東の方角に高く飛んでいったという。その時雷鳴と共に辺りは真っ暗になった。常陸国を目指したようだが、首はその途中で力尽き、この地に落ちたといわれている。 将門の胴塚は討ち死にした地、茨城県坂東市神田山にある。「カラダ」が「カンダ」に変化？
心霊スポット 将門伝説	この場所にて、1923年(大正12年)に発生した関東大震災後の復興計画において大蔵省の仮庁舎を建てようとした際、工事関係者(工事部長・矢橋賢吉)や大蔵省職員、さらには当時の第1次若槻内閣で大蔵大臣だった早速整爾の相次ぐ不審死が起こったことで、将門の祟りが省内で噂されることとなり、省内の動揺を抑えるため仮庁舎を取り壊して鎮魂碑を立てた。1928年(昭和3年)3月には大蔵省が主催して鎮魂祭を行っている。 第二次世界大戦における東京大空襲と日本の降伏後に戦災復興都市計画として、連合国軍占領下の日本を実質的に統治したGHQは、丸の内・大手町周辺の区画整理によって障害となるこの地を撤去・造成しようとした。この時、不審な事故が相次いだため、計画を取り止めた。GHQの主体であるアメリカ軍のブルドーザーが作業中に横転し、運転手が投げ出されて死亡。それまでも事故があり日本人の労務者に怪我人が出ていたので付近を調査したところ、転覆したブルドーザーの前に半分埋まっている墓のようなものが見つかり大騒ぎとなった。当時町内会長であった遠藤政蔵により、将門の首塚の碑であることが判明し、GHQ当局に陳情を重ねた結果、塚の取り壊しが中止された。 それらの結果、大手町周辺が高層ビルの林立するオフィス街へと発展する過程においても、首塚は取り壊しや移転を免れて残ることとなり、現在でも毎日、香華の絶えない程の崇敬ぶりを示しており、近隣の企業が参加した「史蹟将門塚保存会」が設立され、維持管理を行っている。現在、三井物産本社ビルのすぐ傍に堂々と鎮座している。
(大手町) 江戸城址	毎週月曜日と金曜日(祝日と重なった場合は開園、月曜日開園の場合は翌火曜日休園)および天皇誕生日と年末年始は休園で、それ以外の朝9時から夏は18時・冬は16時まで開放している。入園無料、ガイドは付かない。手荷物検査がある。 江戸城は、徳川家康が政権の中心として整備し、三代将軍家光の時代に完成した。現在は皇居の一部として残り、エリアの一部が公開されている。天守は明暦3年(1657)の大火で焼失。以後再建されることはなかった。城のはじまりは長祿元年(1457)に太田道灌の建設と言われている。現在は、一部が皇居となり一般参観で見学する以外は立ち入ることはできないが、本丸、二の丸、三の丸、北の丸、外郭の遺構の多くは一般公開されている。 家康は、慶長8年(1603)に天下を手中に収め、江戸幕府を開き江戸城の築城に本腰を入れる。小田原討伐から数えると40年あまりの歳月をかけ、現在の姿に変貌を遂げた。櫓は20、城門40余り、5層地下1階、高さ60mの日本一の天守と、それを支える精工につまれた石垣。当時の最新技術が投入され、同時に経済力や政治力も強くアピールする意匠となった。言うなれば一介の大名の城でなく日本の中心としての城郭や城下町。ここに世界有数規模の城

皇居
全体図



散歩儿一上概略图

出発地点
皇居桔梗門
詰所前
整理券配布
場所



「**一ノ口地蔵**」(靖国通り・田安門外差止所)